

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471500892		
法人名	社会福祉法人		
事業所名	グループホーム なのはな		
所在地	宮城県大崎市三本木蟻ヶ袋字混内山1-6		
自己評価作成日	平成22年 5月15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年6月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者と知的障がい者が共に生活している共生型グループホームとなっており、年をとっても障がいがあっても住み慣れた地域でその人らしく生活して頂ける様な支援を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三本木町はひまわりで知られている。ホームでは季節になると皆で出掛けて見物し、時には外食するなどしている。管理者、職員は先ず入居者一人ひとりの生活歴を把握、全員で共有し、その上で入居者、家族の思いを聞き支援している。認知症高齢者9名、知的障がい者4名が共に生活するグループホームであり、行事計画策定、実行にあたっては協働の困難さやうかがえるが、行政、地域、法人の助力を得ながら、笑顔で安心して暮らし続けられるように支援している。また、このホームでは夜警員も配置されており、避難訓練時も一緒に行動している。今後もより訓練回数を増やし入居者の安全に努めたいとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームなのはな )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居されている皆様に、住み慣れた地域でその方らしく生活して頂きたいという思いを理念に掲げている。理念の再構築の際は全スタッフと話し合いを設けている。	管理者の研修を機会に全員で検討し理念を一新した。入居者のこれまでの生活を理解し、一人ひとりの笑顔を大切に、又家族、地域との連携を謳っている。会議時に理念を共有し支援のあり方を話し合い実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事に参加したり、近隣の商店の利用を通じて、今までの馴染みの関係を絶たないよう努めている。	町内会に加入し、地域の運動会や避難訓練に参加して近くのひとり暮らしの方の安否確認、声掛けにアパートを訪ねたり積極的に関わりを深めている。若い世代への啓発、理解に今後も努力したいと話しており期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なのはなの入居者への支援が最優先であり、地域の方々への還元という所まで至っていない。なのはな向かいにあるシルバーハウジングの入居者の方の状況訪問に月に1~2回伺っている。緊急時の対応の補助等も行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況や介護情報等お伝えし、ご家族からの意見等真摯に受け止め、今後の運営に活かす努力をしている。	年4回開催し市の職員は2回出席している。開催日を土曜日とし入居者家族全員に出席案内を送付している。ホームの現状や入居者の状況報告、取り組みについての相談等運営に工夫しているが十分ではない。	共生型のグループホームで、入居者家族の思いの違いがあるなど取り組み議題選定の難しさも話されているが、今後定期開催に努め、各委員からの意見、工夫を得ようとしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の疑問があった場合や困難事例に遭遇した際、いつでも相談ができるような体制作りを努めている。	運営推進会議への出席、評価時の出席等、市担当者はホームの現状を理解し、連携して入居者、家族を支援する姿勢が見られる。ホーム側も受け入れ等市等からの相談に応じ日常的に連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者ひとりひとりの状況把握に努め、日中の施錠は行っていない。近隣の交番や商店の理解を得ており、無断外出の際協力を頂ける体制になっている。	管理者職員は入居者の生活歴を把握し、一人ひとりの外出傾向等の情報を共有している。日頃の支援、見守りの中で急にパジャマから私服に着替えていたりなどの変化、異常を職員同士で伝え合い、鍵を掛けず自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会がある場合は積極的に参加している。なのはな内で不適切な行為が無い様細心の注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議等で制度の勉強会を設けたり、外部の研集に参加する機会を設けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に重要事項説明書にて説明を行ない、入居者やご家族に不安・疑問がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見を気軽に話して頂けるよう担当の変更を出来るだけ避け、コミュニケーションを多く取れる環境作りに努めている。法人としても本部事務局にお客様相談室を設けている。	入居者、家族との信頼関係に配慮し、職員異動や担当替えに配慮している。運営推進会議への出席案内を全家族に出して意見、要望の把握に努め、相談、苦情についてホーム以外の他の機関を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員が意見や悩み事を言いやすい様な環境作りに努めている。各職員と同じ目線で物事を考え、困難な事例は全職員で話し合うようにしている。	全体会議には職員全員が参加し、要望、意見を自由に話し合い、また定期的に管理者が個人面談をして目標、悩み、意見を聞き入居者支援等の統一を図っている。法人による勉強会等資格取得への支援も見られる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況の把握を行い、業務の分担、有給休暇の活用を推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	バックアップ施設の協力を頂き、内部研修の参加や外部研修の参加を検討し、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の4つのグループホームの管理者で定期的に連絡会を行い、近況報告や困難事例の相談等行なっている。又、交換研修等行い、相互のスキルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の心身の状況を把握し、希望に耳を傾け、安心してなのはなでの生活が送れる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのサービス状況や生活状況を理解し、ご本人とご家族、ケアマネジャーを交えて話し合いの機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の今までの生活で欠かせないものがあればご本人の希望に出来るだけ添えるように努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は一緒に行い、感謝の気持ちを忘れない様ねぎらいの言葉を掛ける。職員と介護を受ける側という垣根を出来る限り取り払うようにしている。人生の先輩として、学ぶ事も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のためにご家族の協力は不可欠であり、出来る限りの協力を頂きたいと思っている。面会時には出来るだけコミュニケーションをとって頂けるよう配慮している。又、担当を出来る限り固定する事で職員とご家族の関係をより深める様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用していたデイサービスに遊びに行ったり、馴染みの商店へ買い物に行ったり、今までの生活で培った馴染みの関係を絶たないように努めている。	入居前に通った理美容院に出掛け、お墓参りや自宅へのドライブ等も支援している。先日は職員と自宅に行き、気になっていた筍を収穫して帰り季節の味を満喫した。家族の面会も多く、娘との旅行を楽しむ人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が上手く関係を築けるよう職員も間に入り、一緒にお茶を飲んだり、世間話をしている。入居者それぞれの性格を把握し、お互いの関係が良好に保てるようサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所した際は他入居者とともに面会に行ったり、施設職員と情報交換をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で入居者の希望や意向を聞き、出来る限り支援に反映出来る様心掛けている。本人がなのはなでどんな生活を送りたいか考え、本人のケアの質の向上を目指している。	思い、希望の表現が出来ない入居者については、家族、知人にこれまでの生活歴を聞いている。のど自慢番組が好き、外出、買い物が好きなどそれぞれであるが、日常的に音楽を流したりドライブ、買い物に出掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査、居宅ケアマネからの情報をもとに本人の状態把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活支援表(ケース記録)に本人の毎日の状況を記入し、把握している。排泄パターン、睡眠の状況等の確認が出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が出来るだけ以前の生活のリズムを崩さずにご本人らしく生活して頂ける様なケアプランの作成に努めている。全体会議にてケース検討を行い、モニタリングへ反映させている。	個別支援表で生活パターン健康状態を把握し、担当者の情報を基に会議で検討し作成している。意向に添って外出や編み物好きな人への支援など一人ひとりに即したプランを組み3ヶ月、随時に作成し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子を記録に残し、職員は記録をもとに情報の共有をしている。解決が難しいケースがあった際には、全体会議にて話し合い、解決に向けて話し合ったりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変にその都度生れるニーズに対して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交番や消防署、バックアップ施設の協力を頂きながら入居者が安心して生活出来る環境作りに配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からのかかりつけ医に入居後もお願いしている。本人の状況に応じて通院したり、往診を受けたり、日常生活において心配な事等は相談できる関係を築いている。	入居者、家族が希望する医療機関への受診を支援している。受診前、受診後に家族との情報を共有し、時に職員も同行し連携を密にしている。かかりつけ医、協力医との関係も良く夜間は携帯電話での指示も得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バックアップ施設の看護師に協力を頂き、定期的に訪問して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は2～3日おきに面会へ行き、ご家族とも密に連絡を取り合うようにしている。医師からの説明を受ける際は職員も同席させていただき、本人の状況を把握できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	なのはなでは看護師が配置されておらず、医療行為を行なう事は出来ない。限られた環境の中で可能な限りの支援は行いたいとご家族には説明している。	重度化や終末期における支援について、ホームでの対応を入居時家族に説明している。医療連携体制が整わず特養ホームへの申し込みを勧めてもいるが、系列のグループホームで対応を統一し希望による看取り支援に取り組もうとしている。支援例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については全体会議やバックアップ施設の内部研修を通じて学ぶ機会を設けている。必要に応じて協力医、バックアップ施設の看護師に助言を貰うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理責任者を配置し、火災や地震を想定した避難訓練を実施している。地域との協力体制については検討が必要と思われる。	夜間は夜警員も勤務している。夜間想定での避難訓練を実施し、今回夜警員への介護技術習得が課題となった。スプリンクラー設置は準備段階であり、近隣の人々の訓練参加への協力もお願いするとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切でない言葉使いや職員同士の言葉使いに配慮している。	ホームでの生活が長い入居者に対しても呼びかけ、接遇など馴れ合いにならず年長者として敬い、支援している。自分がされたらどうなのか、今どうして欲しいのかと常に問いかけトイレ、入浴時の対応等に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に合わせ、自己決定できるよう支援している。日常の会話から本人がどのように思っているか聞き取り、支援に反映させている。本人の希望は出来るだけ叶えられるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切に、買い物や外出等、個人のニーズに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向に沿いながら、その日着る服を選んだり、その方らしい身だしなみやおしゃれが出来るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり出来る範囲でお手伝いをして頂いており、嗜好に合わせた外食や出前など、食事が楽しくなるような支援をしている。	献立は法人の栄養士が作成している。一日30品目の提供に努め入居者の希望、在庫状況での変更や急遽外食に出掛ける事もある。相性に留意した席の配置を大切に考えており、職員も一緒に楽しく食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はバックアップ施設の栄養士が作成したものを使用しており、栄養のバランスは取れている。一人ひとりの状態や能力に考慮し、食事の形態や水分の形態を変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔内の状況に応じ、口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らいながら声掛けを行なっている。	入居者の水分摂取状況を把握し、トイレへの声掛けを早めたり遅らせたりしながらさりげなく誘導している。薬に頼らずお茶、寒天などの食品で排泄支援をしているが、3日を一応の限度として医師に相談している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目指し、おやつに寒天を提供したり、水分を多く取っていただけるような働き掛けを行なっている。天候がよければ散歩も行なう。それでも排便が困難な入居者は主治医との相談の上で下剤や整腸剤の処方をお願いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日入れるようになっており、その日その日に入浴するかどうか確認している。入浴しない日は足浴を行うようにしている。	他施設からの入居者は2週間に一度の入浴ペースだったが、職員は色々手を尽くし、午前中に拒んでも午後再度声掛けして成功した例もある。常に一番風呂、夜間入浴と一人ひとりの意を汲んで支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムに合わせ、お昼寝や就寝時間の配慮を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や支援表等を活用し、情報を共有できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割を把握し、個人にあった気分転換の支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、一人ひとりの希望に添った外出支援を行っている。遠方の外出の際はご家族の協力を頂いている。	通院、散歩、ドライブ、墓参りや希望により買い物、自宅へとできるだけ外出の機会を増やしたいと支援している。また、桜、菜の花、ひまわり祭りや町が取り組む行事もあり見物に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で使えるお金を持つ事で入居者の自信につながったり、行動範囲が広がる事を理解し、支援にあたっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に電話を掛けたり、手紙のやり取りをして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花を飾ったり、写真を飾ったりする程度である。落ち着いて過ごして頂けるような配慮をしている。	居間、台所、食堂等の設備、調度品は家庭にある馴染みの物である。2人、3人と気の合う同士が寄り添う様子をみながら、ソファを移し変えたり、小柄な入居者への足置き台を置いて足元を落ち着かせたり、居心地よさへの工夫もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはソファを配置し、少人数で寛げる空間を作っている。又、リビング以外の和室もあり、ゆったり過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた家具を持ち込んで頂き、今までの環境を変えないよう努めている。ご家族に協力を頂き、ご家族の写真を飾っている居室もある。	ベッド、筆筒等使い慣れた品を持ち込んでいただき、配置も本人、家族にお願いしている。季節毎の衣類等の入れ替え、整理、折々の家族写真の飾りつけなど、家族も職員と共に本人のホームでの生活を支えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが「できること」「わかること」に配慮し、トイレの入り口に目印をつけたり、居室に表札をつけている。又、廊下や分岐点にカレンダーや時計を飾り、方向や場所を分かり易くしている。		